

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
2022年4月3日(日)
黒田 禎一郎

主 題：「見えない宝が、見えます！」
—キリストのうちに—

テキスト：コロサイ人への手紙 2章1～5節

はじめに

- ・私たちは生きるために、いったい何が必要でしょうか？
人間には欲があり、「もっと」、「もっと」豊かになりたいと願うものです。それは決して悪いことではありません。欲があるからこそ、人は積極的に生きるものです。
- ・しかし、それがある度を越すならば、貪欲となります。貪欲は決してよくありません。貪欲によって、どれほどの人が不幸な人生を過ごしているのでしょうか。
- ・昔から「衣食足りて礼節を知る」(“ Well fed, well bred ”)ということわざがありますが、衣食住があるならば満足し、いや感謝して歩むべきです。イエス・キリストは次のように言われました。

マタイ福音書6章

- 6:32 これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。
- 6:33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。
- 6:34 ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。苦労はその日その日に十分あります。

- ・私たちの人生で大きなことは、思い煩う心があることです。
皆さんには、心配事はありませんか？ 明日のことを考えて、心配で夜も眠れないという方はいませんか？ 聖書は私たちが神を本当に信頼するならば、心配無用であると教えています。
- ・心配のない人生、それはストレスが解放される素晴らしい人生です。
神は私たちに、そのような祝福の人生を過ごすことを願っておられます。
幸いなことに神を信じる聖徒には、心配、思い煩い、不安から解放される幸いな人生を過ごす道が、備えられています。

- ・それだけでは、ありません。私たちが生きるに必要な知恵と知識が備えられているのです。ところで、北浜チャーチの2022年度の年間聖句は、コロサイ人への手紙2章3節です。

「このキリストのうちに、知恵と知識の宝がすべて隠されているのです。」

コロサイ2:3

- ・私たちは、知恵と知識を持って生きることができます。聖書はそれを宝と記しています。宝を持つ人生こそ、まことの勝利者ではありませんか。私たちは新年度、神がお与えくださる宝を持って歩む年とさせていただきたいと願います。 2点

大切なポイント

1. キリストを真に知ること

1) コロサイ教会の人々

- ・今から約2千年前、イエス・キリストの教会は誕生しました。世界で一番はじめのキリスト教会はエルサレムでした。イエスは次のように命じられました。マルコ福音書

16:15 それから、イエスは彼らに言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。

- ・イエスのこの大宣教命令 (The Great Commission) によってキリスト教会は、全世界へ福音を届けてきました。今日もキリスト教会は、世界各地に誕生しています。
- ・ところが、そのキリスト教会の内側を見るならば、決して完全な強い者たちの集まりではありません。いいえ、むしろ弱者が多いのが特徴です。何も問題がない人が集まるのではなく、苦難、不足などがあるから教会へ来る人々が多いのです。そして外部からも、キリスト教会に対しさまざまな攻撃があります。それがキリスト教会です。
- ・しかしながら、そのようなキリスト教会は「なぜ」約2千年間も存続し続けられたのでしょうか・・・？ 実に不思議ですね。
 - ➡それはイエス・キリストが教会の「かしら」であるからです。イエスは今も生きておられるお方です。

2) コロサイ教会に入った異端

- ・この書簡の受取人であるコロサイ教会には、当時外部からの攻撃として異端が入り込みました。その異端とは主に2つありました。

① 「ユダヤ主義」

- ・ユダヤ主義とは、イエス・キリストを信じるだけでは不十分であるという教えです。神が命じられてモーセの律法（戒め）や祭儀を守ることが大切であると主張しました。すなわち、ただ信仰によって救われるという教えに、プラス・アルファを求めていました。
- ・その代表的な教えが、ユダヤ人成人男子が受ける割礼でした。割礼を受けているかどうかは当時は大問題となり「使徒会議」（Apostle Council）が開かれました。（「エルサレム会議」とも言う）
- ・ローマ人への手紙3章は、その結果でした。
3:28 人は律法の行いとは関わりなく、信仰によって義と認められると、私たちは考えているからです。

② 「グノーシス主義」

- ・グノーシス主義は、信仰は理性と哲学で理解する必要があると説く教えでした。信仰は知的理解に加えて、土地の風俗と習慣も混ぜた異教の神々を祀るギリシャの教えでした。
- ・このような教えが、小さなコロサイ教会に入ってきました。そこでクリスチャンたちの信仰はかき廻され、何が正しいか分からなくなっていました。そこで著者パウロは、①「ユダヤ主義」による律法主義と、②知的主義に走った「グノーシス主義」に対して、この書簡を書き注意を与えたのでした。
- ・現代でも異端的な教えは、世界各地にあります。異端の教えは、真理から目をそらすことにあります。これら間違った教え（異端）に打ち勝つ教には、真の教えをしっかりと持ち続けることです。それは宝のようです。その宝はイエス・キリストご自身のうちに、満ちているとパウロは言いました。ですから、宝を持っているかどうかは大切なことです。

2) 著者パウロとテモテの願い

- ・パウロは2章で次のように言いました。
2:2 私が苦闘しているのは、この人たちが愛のうちに結び合わされて心に励ましを受け、さらに、理解することで豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを知るようになるためです。
- ・パウロここで4つの願い（祈り）を述べています。
 - ① 心に励ましを受けるように
心は内なる人の中心にあります。内なる人の中心には心が存在します。その心に励ましが与えられるように願いました。
 - ② 愛によって結び合わされるように

愛は人を引き寄せます。心を持たない人はいません。それは神のアガペー愛です。教会は人の才能、能力、金銭の豊かさ、その他で結び合わされるのでは決してありません。イエス・キリストの愛によって結び合わされるのです。

③ 理解をもって豊かな全き信頼に達しますように

信仰生活は神の国に向かう旅のようですが、確信を持って進みますようにとパウロは願いました。

④ 神の奥義であるキリストを知るように

パウロは、キリストを知ることは、神の奥義を知ることであると言いました。奥義とは秘密のことです。またそれは宝でもあります。

- ・ 聖書の奥義は聖書に書かれていますが、探し求める者には、発見できる秘密です。それはイースターの時に、子どもたちが隠された「玉子さがし」をするようです。その際、探す子どもは発見することができます。

- ・ 同じように、宝を探し求める人は発見することができます。

聖書は次のように語っています。 **マタイの福音書 7章**

7:7 求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。

7:8 だれでも、求める者は受け、探す者は見出し、たたく者には開かれません。

- ・ 著者パウロは、宝のすべてはキリストのうちにあると言いました。

「このキリストのうちに、知恵と知識の宝がすべて隠されているのです。」

コロサイ 2:3

2. キリストのうちにすべての宝がある

1) 知恵の宝

- ・ 定義：知恵は人間的なものでなく、聖徒が創造神からいただくもの。

私たちは神から知恵をいただくことによって、多くの助けを経験することができます。聖書は、あらゆることは神のお許しの下であると教えています。

マタイ福音書 10章

10:30 あなたがたの髪の毛さえも、すべて数えられています。

- ・ しかし困難な時や理不尽な時に出会うと、神はどこにいるのかと不安になります。どのように対応すべきか頭を抱えるものです。そして答えが見つからないこともあります。
- ・ イエスはある時、次のように言われました。

ルカ福音書 21 章

21:14 ですから、どう弁明するかは、あらかじめ考えない、と心に決めておきなさい。

21:15 あなたがたに反対するどんな人も、対抗したり反論したりできないことばと知恵を、わたしが与えるからです。

- 必要な言葉は与えられる → それが知恵のことば（宝）です。

『例 話』

- 私は尊敬する信仰の先輩ヤコブ・エソウ伝道師（Jakob Esau）を、よく思い出します。彼は残念ながら、天に召されました。しかし、彼が語った言葉は今も私の心に深く残っています。
- 彼はイエス・キリストを宣べ伝えたため、4度逮捕され、25年の強制労働収容所に送られた人でした。彼は自分が体験した多くのエピソードを語ってくれました。それは筆舌しがたいほどの、じつに辛いことで、また厳しい拷問も受けたと言われました。
- その彼が、日本のある町で集会をしていた時です。集会後、一人の方が立ち上がり彼に質問しました。「もし、私がヤコブ・エソウ師のような苦しい経験をするならば、到底耐えられないと思います。しかし苦難がやって来たら、私はどうすれば苦しみに勝つことができるでしょうか？」と。
- すると彼は、「もし私がもう一度、あの時のような苦しみに会うならば、私も耐えられるかどうか分からない。しかし私が言えることは、神は私が苦難の中で失望のどん底に陥った時に、側にいて慰めを与えてくださったことです。私の神は必要な時に、必要なみことばと力、そして慰めを与えてくださった。」と言われました。
- 彼は独房（1メートル四方ほどの小部屋）に数ヶ月入れられた時、何週間も人と会話がなかった時、心は孤独に陥りました。そして気が狂わんばかりの失望感に襲われたそうです。その時、一箇所あった小さな天窓（1日にわずかな時間太陽光が入るだけの）から、一羽の小鳥が独房に入ってきました。
- 彼は手を差し伸べると、小鳥は手の平に乗りチュンチュンと冴えずりながら肩まで登り、逆にターンして手の平まで戻り、そして小窓から外へ飛んで行きました。わずかな時間でした。その時、彼はみことばを思い浮かべたそうです。

マタイの福音書 6 章

6:26 空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。それでも、あなたがたの天の父は養ってくださいます。

す。あなたがたはその鳥よりも、ずっと価値があるではありませんか。

- ・このみことばによって、彼はどれほど慰めをいただいたか分からないと、言われました。ですから「先に起こることに何も心配する必要はない。」と言われました。神は必要な時に、必要な言葉を与えてくださいます。
- ・しかし、みことが自然に湧いてきたものではありません。彼の心に蓄えられたみことばが浮上してきました。ですから、心にみことばを蓄えることは大切です。

2) 知識の宝

- ・定義：学問の知識ではなく、先人たちの生きた証し（歴史）です。
創造神を信じ従い歩んだ聖徒たちの歴史から、そしてイスラエルの歴史から学ぶことができるのが「知識」です。
- ・旧約聖書時代の人々は、イエス・キリストを知りませんでした。前方に置いて歩きました。やがてメシアであるキリストが来られることが、旧約聖書時代の人々が祈り願っていたことでした。それが今から約2000年前に成就しました。
- ・新約聖書の聖徒たちは、イエス・キリストを後方において歩んでいます。それは旧約聖書のメシア預言が、イエス・キリストにあって成就したことを確認しました。ですから、旧約聖書、新約聖書のその両方の中心こそメシアであるイエス・キリストです。
- ・私たちは今、旧約聖書、新約聖書の両方を持っています。その中心がイエス・キリストです。神のみことばの中にキリストが啓示されています。イエス・キリストを知る知識は、教会の秩序の根本となります。また堅い信仰の土台ともなります。パウロはコロサイの人々が異端の教えに翻弄されるのではなく、キリストの知恵と知識をもって立ち上がって欲しいと願いました。

3) 聖書は知識の宝

- ・では、なぜ聖書のみことばは知識の宝でしょうか。
➡ 先人たちの生きた証し（歴史）の宝庫だからです。
私たちは旧約聖書の歴史人物から学ぶことができます。アブラハムは、神と契約を結びイスラエルの父祖となりました。彼の生涯からは多くの教えを学ぶことができます。そしてイサク、ヤコブの生涯からも、彼らが生きた生涯から多くのことを学ぶことができます。

- ・神はモーセを立てられ、イスラエルの民を約束の地へ先導されました。そのモーセの生涯から、無限の学びを得ることができます。そして後継者ヨシュアの生涯から、さらに学ぶことはできます。さらに神は数多くの預言者、王、士師、神の人、賢者などを起こされましたが、その人々からも多くのことを学ぶことができます。
- ・**新約聖書に入るならば**、12使徒から、その一人一人から、多くのことを学ぶことができます。さらに偉大な伝道者パウロから、テモテから、私たちは学ぶことができます。これらのすべての先人たちに信仰は、一人のお方イエス・キリストに的は絞られていきます。ですからパウロは「**キリストのうちに知識の宝がすべて隠されている**」と語りました。
- ・キリストを知り、知恵と知識の宝を知ることこそ人生最高の宝です。私生活において、仕事において、また研究生活において、あらゆる分野でキリストのうちに宝があります。それは発見した人のみができる宝です。

「このキリストのうちに、知恵と知識の宝がすべて隠されているのです。」

コロサイ 2:3

- ・イエス・キリストを知ること、キリストから学ぶことが大切です。私たちは愛によって一つとなり、神のことばを正しく知り、真実と偽りを見分ける力を得られるのです。
- ・では、どうすれば良いでしょうか。
 - ① みことばの前に先ず心を静ませること（黙想）から始まります。
 - ② 神に祈り求めること。
 - ③ もう一人の助け主（聖霊）が待っておられる
必要にお答えくださる ➡ 「ディボーション」

* 2022年度、北浜チャーチは、キリストにある宝を見つける教会となることを願います。

ま と め

主 題：「見えない宝が、見えます！」

—キリストのうちに—

- ・主は今朝も私たちにお語りくださいました。4月から始まった新年度、私たちはどのような歩みをさせていただくでしょうか。兄弟姉妹にとって、宝を発見する年になるようにと願います。なぜなら「キリストのうちに」、問題解決の鍵、励まし、力、そして導きが隠されているからです。

・最後にこの聖句を、ご一緒にお読みしましょう。

「このキリストのうちに、知恵と知識の宝がすべて隠されているのです。」

コロサイ 2:3

*God bless you!